

理解状況の把握に「授業支援機能」

どのようなときに利用できるの？



先生

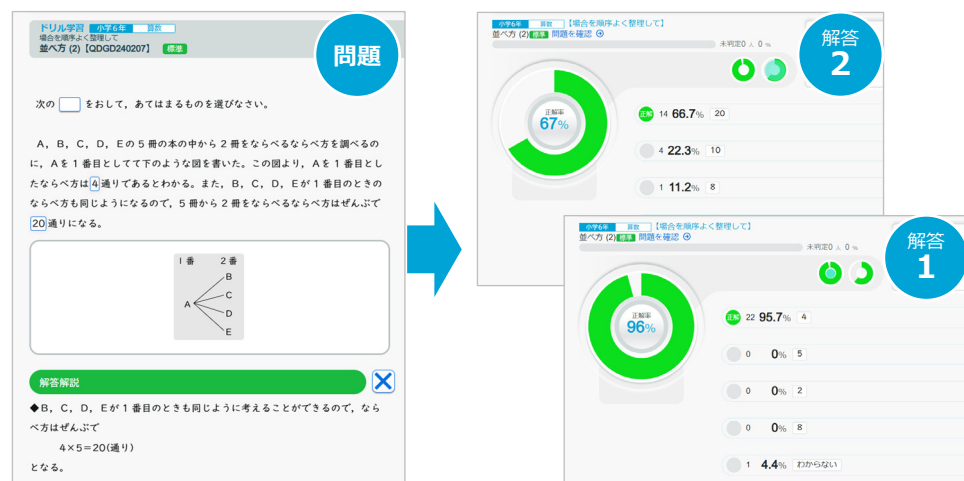
従来の板書中心の授業では、発表する児童生徒が限られているため、一人ひとりの様子を把握するのが難しいです。

理解状況を内容ごとに細分化して、数値で把握できるため、指導すべき内容を焦点化することができます。



授業支援機能とは

ドリルの問題を一問単位で出題し、その問題に対するクラスの理解度や解答の様子を詳しく見取ることができます。



指導ポイントを焦点化

問題の解答ごとに理解状況を把握でき、指導ポイントを効率よく確認できます。

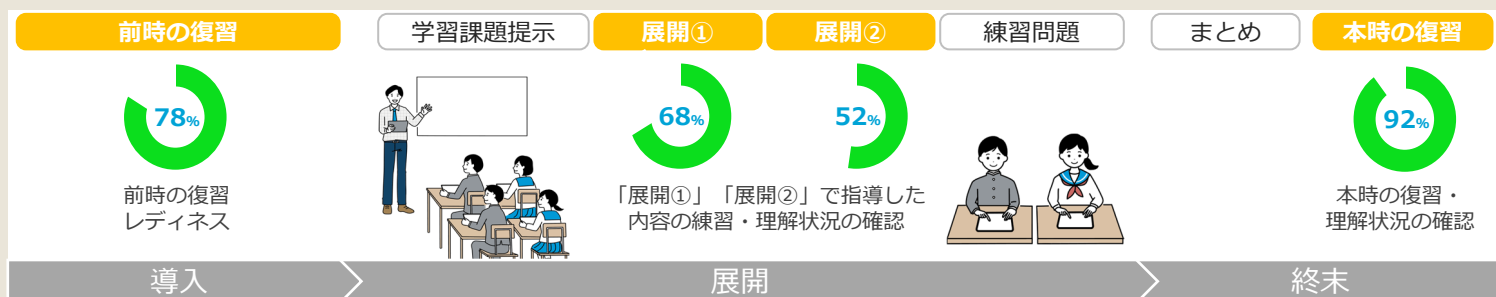
解答傾向がわかる

画面に書き込んだ途中式や解答の傾向からつまづきを把握することができます。

解答解説で指導

すべての問題に解答解説が付いています。図解の付いている解説もあるため、板書の手間を省き、視覚的にわかりやすく解説できます。

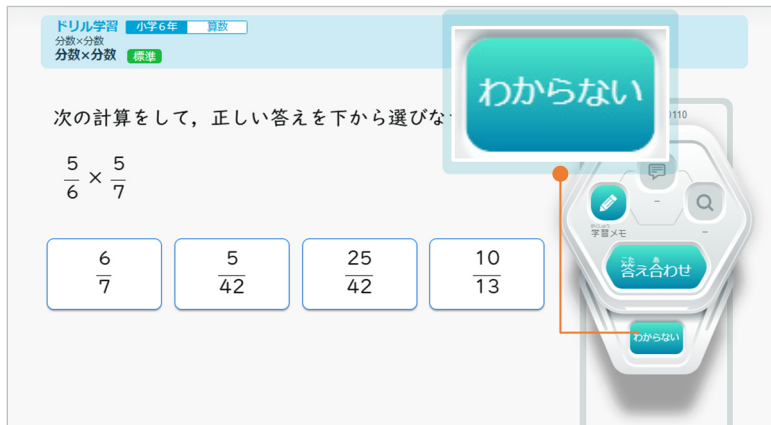
例1) 一斉講義型指導の場合



例2) 自由進度学習・問題解決型学習の場合



1 児童生徒の状況を把握できる



「わからない」の意思表示

問題が解けないときに「わからない」を選択でき、先生に自分の状況を伝えることができます。

ポイント

「わからないけど、みんなの前だと質問できない」「緊張して手を挙げられない」など、児童生徒の心情を配慮し、全員参加の授業を目指せます。授業支援機能で状況を把握し、意思表示しづらい児童生徒の個別指導に入りやすくします。

2 テンプレートから出題できる



個人フォルダ

テンプレートに登録した問題から出題できます。



ラインズフォルダ

ラインズおすすめの問題（算数・数学）から出題できます。



校内共有フォルダ

テンプレートに登録した問題を他の先生も出題できます。



「ラインズフォルダ」の内容の一部

3 理解状況や指導内容を記録できる



授業メモ

メモを指導ヒストリーとして授業づくりに生かす

理解度チェック後に気づいたことや指導すべきポイントなどを授業メモに記録できます。

学習メモ

個別に指導が必要な児童生徒への対応

学習メモの記録は、先生から確認できます。どこにつまずきがあるかを把握し、指導につなげることができます。